

2021 年度 滋賀会第 4 回定例研修報告

滋賀森林インストラクター会

■実施日 2021 年 11 月 21 日 (日)

■場 所 湖南市三雲城址

■行 程 妙感寺駐車場 10:10→妙感寺出発 10:30→
磨崖仏 10:40→三雲城址入口 12:05→城址頂上 12:30
(昼食)→八丈岩 13:35→三雲城址入口 13:45→
(川沿いコースの帰路)→妙感寺 15:00

■参加者 小西、関澤、森上、高橋昌子(一般参加)、
安田(集合場所からの案内のみ)、高橋(報告)
下見(11/14): 安田、小西、関澤、橋木、高橋



【妙感寺から三雲城址入口まで】～異形の樹木～

妙感寺境内奥の「不老の滝」横の登山口から散策コースに入ると、ヒノキの高木を主とする鬱蒼とした森が始まります。森に入って10分ほどで、建物に納められた磨崖仏がありました。



散策開始



「不老の滝」



磨崖仏の社



磨崖地蔵菩薩像

磨崖仏の先の木立にたわわに実を付けたタマミズキの高木を見つけました。林床には赤い実や黄色くなった葉が落ちていました。タマミズキだけでなく、ソヨゴやアオハダ、イヌツゲなど同じモチノキ科の木々が実りの季節を迎えていました。



タマミズキの幹



落ちていた実



タマミズキの葉



モチノキ



ソヨゴ



アオハダ



イヌツゲ



虫こぶ「イヌツゲメタマフシ」

タマミズキ同様、ソヨゴも樹全体に赤い実が大量に実っていました。イヌツゲメタマフシはイヌツゲタマバエが形成者で内部に幼虫が育っています。

三雲城址までの道半ばで、ユズリハの大木と出会いました。その幹の異形には驚かされます。



ユズリハの大木



幹の異形



落ち葉と果実



実生の幼樹



ユズリハはユズリハ科の常緑高木。雌雄異株。果実も葉も有毒。本州宮城県以南の太平洋側、四国、九州、沖縄まで分布。

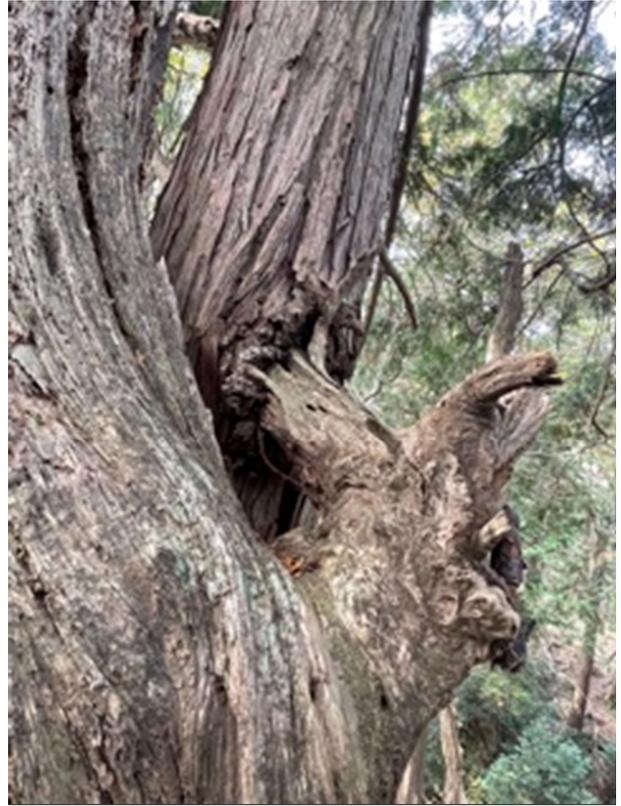
庭木で数メートルほどのユズリハをよく見るので、これほどの大木に

なると思いもしなかった。調べてみると、栃木県大田原市の「成田山のユズリハ」(写真右)は樹高15m、幹周3.2m、推定樹齢300年で、大田原市の天然記念物になっているそうです。幹を見ると、数本の幹が合着しているようで、今回研修で発見した幹と同様です。「なるほど」と納得でした。ユズリハの大木はあまりお目にかかれないので、研修のハイライトです。

このユズリハ以外にも異形の樹...



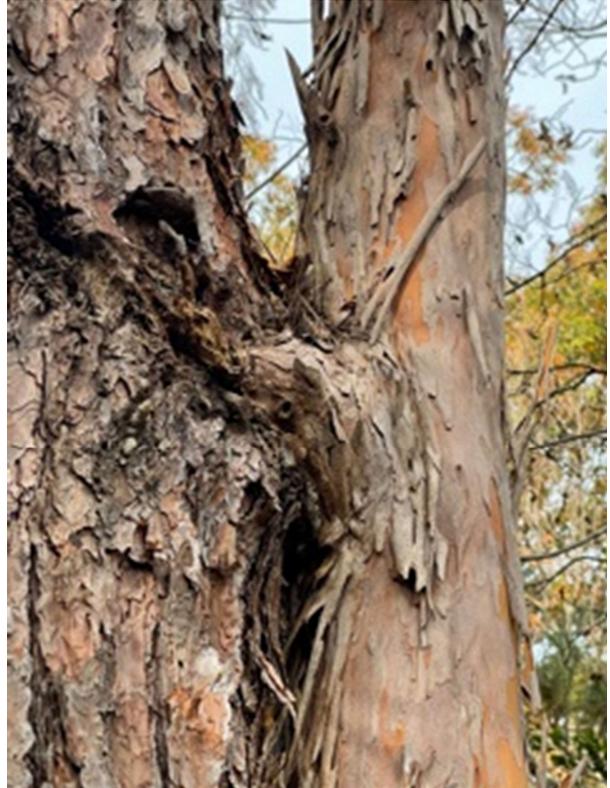
のたうつヒノキ



枯れたヒノキの枝が食込んでいる



抱き合うアカマツとリョウブ



リョウブの枝を飲込んだアカマツの幹

秋の彩りも豊か...



クロモジ



カマツカ



サルトリイバラ



ツルリンドウが群生していて、果実も大豊作でした



タカノツメ



ムラサキシキブ

【三雲城址から八丈岩】



紅葉に覆われた三雲城址入口



城郭跡への階段



階段の土にケバエの幼虫団塊



主城郭跡地



第2城郭(山頂)からの湖東平野を望む



八丈岩

ケバエの幼虫は第2のハイライト。グニョグニョと蠢く彼等に生命力を感じます。八丈岩に供えたお願いの石に「おとうさんがカックよくなりますように♡」泣けます。



【アオハダの黒班】～おまけ～



研修コース各所で見られたアオハダの黒班。これは黒紋病という病気の様です。病状は、葉の表面に小さな斑点が発生し、それがタールのような大きく黒い光沢のある厚さ2～3ミリの隆起物を形成するとのこと。病原菌は糸状菌(カビ)の一種。カエデ類、ガマズミ、スイカズラ、ツツジ類、モチノキ、ヤナギ類などに発生する。

梅雨の時期には孢子を飛ばして他の樹木の葉に伝染します。三雲城趾入口近くのイロハモミジの黒班も黒紋病と思われます。



磨崖地藏菩薩像の近くでみられたサカキの葉の白点も病気と思われます。葉上に藻の一種が繁殖し発病する白藻病、吸汁性害虫の寄生による食害から発生する斑点など様々な原因が考えられます。樹病も奥が深いですね。

第4回定例研修～三雲城址～は天候にも恵まれ、楽しい研修会となりました。特に、異形の樹木や豊かな実りの季節、紅・黄葉の彩りなど森林のさまざまな生態を実感できるフィールドでした。参加者が少なかったため、季節を変えて再度研修会を開催してもいいと思います。